# 活動NEWS

8/4

特別委員会・名古屋市区制運営

8/22

岡山歴史のまちしるべ設置場所選定会議

9/9

市政報告会

9/28

高松地区下水道整備説明会

10/4

「あっぱれ岡山市議会」 収録

10/30

保健福祉委員会 長崎市ケアシステム

12/1

造山古墳 発掘調査

12/10

県難病連 市民講座

2018 1/5

岡山市中央卸売市場 初市


## 松田たかゆき 事務所

TEL＆FAX / 086-287-5697

〒701-1333　岡山市北区立田140番地8

E-mail：t-matsuda@takayuki-matsuda.com

HP：http://www.takayuki-matsuda.com


■**所属委員会**
保健福祉委員会　副委員長
大都市制度・広域連携調査特別委員会

■**プロフィール**
三井造船㈱玉野造船所（7年間勤務）
岡山市役所退職（35年間勤務）
建設設備の設計施工管理
環境局関連事業
廃棄物事業・地球温暖化対策事業
ESD国際会議誘致等
（公財）岡山市ふれあい公社（2年間勤務）
2015年　岡山市議会議員　初当選

市政または地域のことについてご相談・ご要望等ございましたらお気軽にご連絡下さい。

岡山市議会議員（北区選出）　自由民主党岡山市議団所属

# 松田たかゆき 市政活動報告

Vol.6
平成30年春号

ごあいさつ

平成27年4月の当選から三年が経ちました。平素より私の議員活動に温かいご理解とご指導を賜り心より感謝を申し上げます。
今回の市政活動報告Vol.6では、昨年の8月及び11月定例市議会における個人質問や、ここ半年間の活動の一部をお伝えいたします。
残された任期においても、初心を忘れることなく精進してまいりますのでよろしくお願いいたします。

岡山市議会議員　松田隆之

## Topics

### 岡山市斎場計画

東山イメージ図

①場所　②現在の状況　③斎場規模　④稼働予定　⑤その他

**東山**
①中区門田本町4－1ほか
②工事中（平成31年3月31日まで）
③人体炉（14基）　動物炉など（2基）
④平成31年度稼働予定
⑤現在の東山斎場を建て替え整備中

**新斎場**
①北区富吉2707番1ほか
②実施方針公表中・平成30年10月落札者決定
③人体炉（12基）　動物炉など（2基）
④平成34年度稼働予定
⑤富吉地区廃棄物最終処分場跡の土地

**西大寺**
①東区富崎474
②人体炉（3基）　汚物炉（1基）
③築後35年が経過しており今後の対応検討中

### 日本遺産申請

**日本遺産：** 我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもの
**申請者：** 岡山市（代表）、倉敷市、総社市、赤磐市
**タイトル：** 古代吉備の遺産がいざなう鬼退治の物語
**ストーリーの概要：**
岡山には、吉備津彦命による温羅と呼ばれた鬼を退治した伝説が語り継がれ、昔話桃太郎の原型になったとされる。
絶壁にそびえる古代山城は温羅の居城とされ、約1800年前の巨大墓に立ち並ぶ巨石は命の楯となった。勝利した命は巨大神殿に祀られ、敗れた温羅の首はその側に埋められ、この地で吉凶を占っている。
**今後のスケジュール：** 4月頃認定結果公表

**構成文化財**（4市計27件）

# 8月定例岡山市議会　質問と答弁

## 質問項目

- 公衆トイレのあり方
- 人材育成と組織について
- 吉備線LRT化事業について
- 農業用施設の整備について

## 公衆トイレのあり方について

**Q 下水道未普及地域の公園や観光地トイレを簡易水洗化ではなく浄化槽による水洗式に改善できないか。担当局及び、財政局としてのご所見を。**

観光地等の公衆トイレについては、利用状況や敷地の状況等も踏まえ汲み取り式から簡易水洗式にするなど対応している。
浄化槽設置は高額なため環境整備という点から簡易水洗化を進めており必要に応じて改善していく。
財政側としては、担当局から色々な話をしっかり伺って適切に対応したい。

## 人材育成と組織について

**Q 市民の皆様が、職員の説明や態度に納得が出来ない時や市の仕事で不利益を受けた時など、業務に関する苦情を公正に調査し中立な立場で判断する部署の設置が必要では。**

市民の皆様の御意見、御提案については、広報広聴課や各区の区民相談窓口などでお伺いし、当該業務の所管課が対応している。
また、行政処分に対する不服については、第三者機関への諮問など、公平公正な手続きを行う行政不服審査制度を適用している。
他都市においては、行政オンブズマン的な部署を設置している事例もあり、引き続き検討したい。

## 農業用施設の整備について

**Q 農業用施設整備の昨年度及び今年度の要望件数と対応状況は。**

平成28年度から平成29年度にかけての要望件数は1,433件で、整備に着手し対応済みとなっているものが722件、対応中のものが641件、対応不能が44件となっており、整備対象とした対応率は95%（工事着手した対応率は約50%程度）となっている。

**Q 地域が要望しても3年以上手がついていない物件については要望された町内会や農業水利土木委員に情報を返してもらえないか。**

個々の要望について進捗管理が十分行き届いていない面があろうかと思う。今後、把握に努めながらある一定のスパンで地元へ説明できるようにしたい。

**Q 農業用排水路、樋門、農道、ため池等の農業用施設整備における、市と土地改良区の施行区分は。**

国営、県営事業の要件を満たさない農業用施設の更新整備や長寿命化対策については、土地改良区が実施主体となり、国庫補助を受けた団体営土地改良事業、又は償還助成による非補助土地改良事業により実施している。一方で、農業用施設の小規模な維持修繕や災害復旧等の緊急的な対応が必要なものについては市が直接工事を行っている。

## 吉備線LRT化事業について

**Q 事業の役割・効果、そして沿線住民だけでなく、より多くの市民に整備効果を届ける必要があるのではないか。**

LRT化事業は、コンパクトでネットワーク化された都市づくりの実現を目指した重要な取組の一つ。高頻度運行、新駅、バリアフリーといった公共交通の機能強化が図られ、一宮・高松方面の連携軸の強化とともに、駅前広場や駅へのアクセス道路の整備、更に新駅設置による生活交通や路線バスによって駅と周辺の集落を繋ぐことで、広く周辺地域まで受益を得られるよう面的な取組についても検討する。

# 11月定例岡山市議会　質問と答弁

## 質問項目

- 生涯現役社会の実現をめざして
- 児童生徒の不登校について
- 安全安心なまちづくりについて
- IoT(モノのインターネット)の活用について

## 生涯現役社会の実現をめざして

**Q 生涯現役応援センター事業について、高齢者は少しでも収入になる求人先を望んでいる。就労の場を子育て、高齢者支援分野等から拡充しませんか。**

活動の場が限定的になっており、就労へのマッチングが十分でなく、高齢者のニーズに十分に応えていないので、活動分野を幅広いものとし、社会参加と就労の場等、可能な限り高齢者の希望に沿って提供できるよう有償就労の場や活動の場の開拓を進めていく。

## 児童生徒の不登校について

**Q 不登校の児童生徒が相談した機関・相手先についてはどのように把握していますか。**

不登校に関する相談は、担任等の教員のほかスクールカウンセラーや子ども相談主事、教育相談室、適応指導教室等で対応しており、相談状況については、教育委員会で把握している。フリースペース等の民間の支援団体とも連絡会を持ち状況把握に努めている。

**Q 教育相談室、適応指導教室の利用状況と課題・対応策は。また、これまでの相談体制に加えLINEや匿名アプリを使う取組を試験的に導入してはどうか。**

昨年度、教育相談室と適応指導教室での相談件数は延べ9,186件で、69名の児童・生徒が適応指導教室に通室しました。課題は、保護者への周知や通室した子どもへの学習支援の充実があり、利用促進や自主学習ソフトを活用した学習ができるよう対応している。また、あおぞら清輝の中区へ移動に伴い市南部への適応指導教室の設置を検討している。文部科学省が試行しているSNSについては研究課題としたい。

## 安全・安心なまちづくりについて

**Q 用排水路浚渫業務委託や、水路浚渫交付金事業により実施していた、藻刈り、浚渫等の作業範囲が、高齢化や農家の減少により縮小せざるを得ない状況になっている、今後の方針は。**

地域の共有財産である用水路の浚渫等は、共助の精神に基づき、地域の受益者の皆様の御協力のもとで成り立っており、引き続き御協力をお願いしていくとともに、地域活動の実態把握に努めたい。

**Q 農業水利土木員及び水利監督員の持続可能な制度化及び、来年度からの報酬額の見直しを強く要望するがどうか。**

報酬額が周辺自治体に比べ低い額だということは承知している。また、やる気をもっていただくことも必要と考えており現在、見直中であり適切な形で運用させたい。

**Q 市管理の国・県道、市道の総延長は約6,500ｋｍ、昨年度の区画線施工は187km、9,200万円。生活市道の路側帯標示（白線）は消えている箇所が多い、対応策は。**

市民から管理が不十分との指摘も受けており、重点をおき進めているところ。ご指摘の生活市道も、道路パトロールや市民からの通報により速やかに補修するよう努めたい。

## IoT（モノのインターネット）の活用について

**Q IoTとは、あらゆるモノがインターネットにつながり、モノのデータ化や自動化等が進展し、AI（人口知能）も使いながら、新たな付加価値を生み出すという概念を表したもの。IoTの活用により河川水位を監視し遠隔地の状況を把握、AIも活用して河川氾濫リスクを判断する。県と共同で取り組んではどうか。**

県は来年度以降、従来型の水位計とともに、IoTを実装した水位計合わせて55ヶ所を県内に増設し、よりきめ細かく情報提供していくと聞いている。今後、県管理河川の減災対策を協議する場において、更なるIoT等の活用について働きかけたい。